

# 欧米経済史

第三回 パクス・ブリタニカの構造 (第3章)

# 今週の内容:パクスブリタニ 力の構造 (第2章)

- Sec.1 重商主義帝国の形成と発展
- Sec.2 自由貿易政策への転換
- Sec.3 チェンバレン・キャンペーンをめぐる「帝国」と「自由貿易」
- 国際通貨システムの理解①国際通貨とは？

# Section 1: 重商主義帝国の 形成と発展

- イギリスー17世紀末から19世紀にかけてー植民地の拡大（アメリカ東部・西インド諸島）ーオランダ・フランスとの植民地戦争の勝利→植民地独占貿易が繁栄の核心
- 産業革命前のイギリスの三つの敵ー①フランス毛織物業②オランダ毛織物業・海運業③インド綿織物業

# 航海法→オランダ海運業

- 1651年航海法、1660年航海法→イギリスの植民地貿易から外国船を排除し、植民地の輸入をイギリスから輸送される財貨に制限→イギリスは航海と海上支配力を増大し、イギリス製品のための市場独占と貿易差額の改善

# 重商主義

- 貿易（輸出入）差額の獲得による金銀の蓄積
- 自国船主義→海運収入と安全保障
- 輸入一国产工業製品と競合する外国商品に対する高率関税もしくはは輸入禁止
- 輸出一国産品の輸出奨励

# 穀物法

- 1670年穀物法:農産物の輸出奨励、輸入制限または禁止により、穀物価格を一定水準に維持
- 地主・農業資本家に有利
- 1815/25年穀物法改正→ナポレオン戦争後に安価な穀物、特に小麦がイギリスに流入することを阻止。

# Sec.2 自由貿易政策への転換

- 19世紀前半—綿業における産業革命→工業製品の広範な市場を確保するために、帝国領だけでなく、新たな市場の獲得が必要に。
- 綿業輸出は、ラテンアメリカへの輸出を急拡大し、帝国外諸地域の輸出財と植民地からの特恵的輸入品と競合

# スミス 『国富論』 (1776年)

- 重商主義批判—重商主義は消費者の利益に反する策謀であり、消費者は、市場経済の自由な流れに対する政治行為のあらゆる干渉の結果、高い物価に直面している。

# ハスキソン「フリー・トレーダー」

- 1820年代、商務庁長官ハスキソンの自由貿易政策
- ①工業製品が必要とする原料の輸入制限緩和
- ②工業製品輸出促進のための外国との互恵的関税引下げ
- ③航海法による独占貿易の変革

# 穀物法撤廃運動(1838-46)

- ドイツ、1834年関税同盟結成→同盟外部の製品に対する高率関税により工業を保護し、産業的自立を目指す。
- →穀物法廃止運動（マンチェスタ派）—各国をイギリス工業の発展に必要な農産物および工業原料の供給地として組込む

# ピールの関税改革

- 第二次ピール内閣(1841-46年) —赤字財政解決と穀物法改正
- 原綿と羊毛の原料輸入関税の撤廃
- 財政改革—所得税導入

# 穀物法論争

- マルサスー穀物法擁護（地主利害）
- リカードー穀物法撤廃（産業資本利害）

# 国際自由貿易体制の構築

- イギリスを中心とする国際農工分業
- イギリス—繊維・鉄鋼製品・機械類の工業完成品の輸出—食料・原料を輸入

## Sec.3 チェンバレン・キャンペーンをめぐる「帝国」と「自由貿易」

- 19世紀後半ドイツ、アメリカの工業的追い上げ
- →「どう対応するか？」
- イギリス—「一方的自由貿易政策」—多角的通商システムを維持

# チェンバレン・キャンペーン

- 1903年ソールズベリ統一党植民地大臣チェンバレン
- 帝国関税同盟・関税改革—工業・農業保護関税および帝国特惠関税の導入による帝国内自由貿易
- (目的) 産業保護と帝国統合
- 「高いパン (食料関税)」 批判

# 1906年総選挙

- 保守党「関税によって保護された閉鎖的自給帝国」
- 自由党—自由貿易政策堅持と「世界に開放された金融帝国」
- 「ジェントルマン資本主義」—「産業利害に対する金融利害の勝利」

# 国際通貨システムの理解①

- 時期区分
- ①国際金本位制(1880-1914年)
- ②再建国際金本位制(1925-1931年)
- ③大恐慌と通貨ブロック(1931-1936年)
- ④ブレトン・ウッズ体制 (1945-71年)

# (続)

- ⑤1960年代のドル危機と国際通貨制度改革
- ⑥変動為替レート下の「ドル本位制」(1971-1985年)
- ⑦プラザ合意以後のマクロ政策協調(1985年一)

# 国内決済

- 預金通貨を基礎にした国内決済システム
- 内国為替—遠隔地間の決済において「当事者間で直接現金を受払いすることなく、第三者にいたくすることによって貨幣的移転を行う手段」
- 内国為替→銀行小切手→為替手形（国内決済システム）

# 国際決済

- + 自国通貨と外国通貨の交換
- 国際政治経済の中心国の国内決済システムを周辺国がそのまま国際決済システムとして利用している。
- 中心国におかれた周辺国為替銀行の中心国通貨建て要求払い預金 = コルレス残高 (かつてはポンド残高、今日ではドル残高)

# 国際通貨の三つの機能

- ①計算単位
- ②支払手段
- ③価値保蔵手段

# 民間レベルの国際通貨の三つの機能

- ①貿易取引における契約通貨
- ②為替銀行の国際決済における取引通貨、**為替媒介通貨**（第三国貿易に用いられる）
- ③国際金融資本市場における投資通貨

# 基軸通貨と金

- 基軸通貨—公的に3つの機能を有する通貨
- ①基準通貨—国民通貨を平価表示に使用
- ②介入通貨—平価固定のために外国為替市場で平衡操作をおこなう。
- ③準備通貨—平衡操作実施するために保有

# 次週の内容

- 第3章 国際金本位制